

きょうされん 第47次 国会請願署名

受付期間：1月22日(月)～3月29日(金)

コロナ禍の影響が長期化する中、障害のある人たちのいのちと健康を守るため、政府にはこれまで以上に実効性のある対応が求められています。

2023年11月～12月に「優生保護法の被害に対し、最高裁判所に人権の砦として正義、公平に基づく判決を求める署名」に取り組みました。

きょうされん署名では、優生保護法の全面解決を求めています。障害のある人たちの「いのちの尊さ」「人としての尊厳」が守られるように、署名にご協力をお願いします。

署名用紙は2月1回(1月22日～26日配付)の商品案内と一緒にお届け。署名した用紙は、供給時に注文書と一緒に提出ください。昨年は、東都生協組合員からの4,871筆を含む70万3千筆を超える署名が集まり、国会に請願書を提出しました。ご協力ありがとうございました。

「書き損じはがき」など回収キャンペーン 取組期間：1月22日(月)～5月31日(金) 投函分まで

飢餓のない世界を目指して活動するNGOへの支援活動や、障害のある人たちの就労支援、働く場の環境改善に充てるために、書き損じはがきや未使用切手などを集めて換金する「書き損じはがきなど回収キャンペーン」を行っています。

誰一人取り残さない支援活動へのご協力をお願いいたします。2月1回(1月22日～26日配付)の商品案内と一緒に「専用封筒」をお届け。「書き損じはがき」などを入れて郵便ポストに投函してください。(供給時の回収はしていません)

「書き損じはがき」は、リサイクル洗びんセンターに届き換金され役立てられます。昨年の換金額は1,257,043円でした。はがき以外の物は、特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールドで換金され、飢餓に直面する人々の自立支援など、飢餓のない世界をつくるための活動に役立てられます。昨年の換金額は3,960,738円でした。



住所不明組合員のみなし自由脱退手続きに関するお知らせ

定款第10条第2項に基づき、住所の変更届を2年間行わなかった組合員は脱退の予告があったものとし、「みなし自由脱退対象者」とさせていただきます。

今回の対象者となっている方は、2024年3月20日をもって「みなし自由脱退」として脱退手続きをさせていただきます。お心当たりのある方は、至急東都生協までご連絡ください。なお、みなし自由脱退手続き後にお申し出があった場合は、出資金を返還させていただきます。

2023年12月20日
東都生活協同組合 理事長 風間 与司治

お問い合わせ | システム部 システム運用グループ ☎ 03-3329-4927 午前9時～午後5時(火曜～土曜・祝日も可)

理事会報告(抜粋)

2023年度 第7回定例理事会(2023年11月16日開催)

- 審議事項**
 - 2024年度理事会等日程(案)と第51回通常総代会日程(案)確認の件
- 報告事項**
 - 2023年10月度決算報告
 - 2023年度上半期の内部統制進捗報告に関する件
 - 各部署業務報告
 - 理事懇談会・研修会開催の件
 - 組合員活動委員会報告
 - 商品活動関連報告
 - 商品活動関連報告
 - 常任理事会決議事項報告
 - 子会社に関する報告の件

2023年度 第8回定例理事会(2023年12月21日開催)

- 審議事項**
 - 2024年度活動方針・事業計画・予算及び業務組織機構の大綱確認の件
 - 2024年度商品事業に関する委員会等活動計画の件
 - 2024年度保育ママ委員会設置の件
 - 第20回東都生協平和のつどいの開催および実行委員会設置の件
- 報告事項**
 - 2023年11月度決算報告
 - 各部署業務報告
 - 組合員活動委員会報告
 - 商品活動関連報告
 - きょうされん第47次国会請願署名およびリサイクル洗びんセンター支援募金の件
 - 第19回東都生協平和のつどいまとめの件
 - 食料・農業・農村基本法改正に向けた考え方・方向性の件
 - 理事懇談会・研修会開催の件
 - 常任理事会決議事項報告

<11月の私たち>

2023年11月20日現在 ※[]内は前年比

| | | |
|-------------|---------------------|----------------|
| 組合員数 | 259,159人 | [100.7%] |
| 加入 | 8,171人 | [157.6%] |
| 脱退 | 5,322人 | [104.6%] |
| 総事業高 | 22,147,480千円 | [96.2%] |
| 共同購入事業 | 21,186,830千円 | |
| 弁当配食事業 | 258,534千円 | |
| 生活文化事業 | 169,493千円 | |
| 生活支援事業 | 47,530千円 | |
| その他事業 | 485,093千円 | |
| 出資金 | 6,708,661千円 | [99.5%] |
| 1人当たりの出資金 | 25,886円 | [98.7%] |
| 1人当たりの利用高 | 6,107円 | [100.4%] |

今後の理事会日程(予定)

- 3月14日(木)・4月4日(木)
- 4月18日(木)

MOGMOGレポート

2024
月号

report 01
10月29日

稲城くらしフェスタ2023に出展 ～京王線若葉台駅北口に 東都生協の試食イベント車が登場～

いなぎブロック委員会主催

毎年開催される稲城市消費生活センター運営協議会・稲城市が主催の「稲城くらしフェスタ」は、豊かで安全・安心な消費生活を楽しく学べる消費生活情報満載のイベントです。今年度は「住」がメインテーマ。

10団体のブースが並び、景品がもらえるスタンブラリーにも大勢が参加。

その中で東都生協は、水田が果たす環境保全にスポットを当て、「お米を食べることが私たちの生活に役立つ」とアピール。試食イベント車のキッチンで調理した「生米で作るモチモチキャベツ焼き」を来場者に試食してもらいました。

ベビーカーを押す家族や元気に走り回るお子さんの姿が目立つ会場で、幅広い年代に「モチモチ!」「おいしい!」と好評。頬張る姿にケーブルテレビの多摩テレビもカメラを向けていました。

東都生協の紹介ブースでは8種類の野菜を販売し、夕食宅配を紹介。興味を持って立ち寄った来場者への説明では、お試しのタマゴプリン、ジュースを提供。

野菜販売を通してブロック委員・地域コーディネーター・理事・職員みんなで「仲間づくり」で連携を深め、多くの来場者に東都生協を知ってもらう機会となりました。

「仲間づくり」で当日5人が加入! 試食イベント車



report 02
11月11日

大型バスで行く! 埼玉産直センター 「収穫祭」

大きな大根を収穫したよ

第5・第6地域委員会

秋晴れの中、第5・第6地域委員会共催で第19回埼玉産直センター「収穫祭」を訪問しました。

99人の申し込みがあり、抽選や繰り上げ当選などの結果、当日は39人で向かいました。会場では野菜の即売、くじ引き、焼きそば・豚汁・焼きねぎなどの飲食コーナーがあり、東都生協の試食イベント車も参加し、米粉と(農)埼玉産直センターの長ねぎを使ったモチモチネギ焼きの試食を実施。収穫体験も行き、つつい帰りのことを考えずにたくさん収穫した参加者も。2歳児からおとなまで楽しい時間を過ごすことができました。

参加者からは「子どもが楽しんで」「収穫祭ということで太鼓の演奏やマスコットキャラクターも参加してにぎわい、新鮮な野菜を手にしたこと以外にも楽しむ要素がたくさんで満足した一日でした」「産地を訪問することでいつも食べているものがどこから届けられているのかが実感できてよかった」「野菜を土から引き抜くことを久しぶりに体験できた」との感想が寄せられました。

東都生協と同じく(農)埼玉産直センターも設立50周年。同日、組合員理事、地域コーディネーターは学習交流会に参加し、同産地の歴史、土づくりのこだわりについて学びました。

学習交流会の冒頭に、35年以上の永年取引先として(農)埼玉産直センター・井上賢一代表理事に東都生協風間与司治理事長から間伐材を使用した感謝状が贈呈されました。



Pick up

北海道枝幸漁協とオンライン交流会 「豊かな海と森に囲まれた 枝幸町からこんにちは!」

2023年11月11日(土)「枝幸漁協」「北海道ぎょれん」そして東都生協をつないでのオンライン交流会が開催されました。雪の北海道と晩秋を感じ始めた東京を繋いで、動画学習やクイズ、試食とライブ感満載でした。

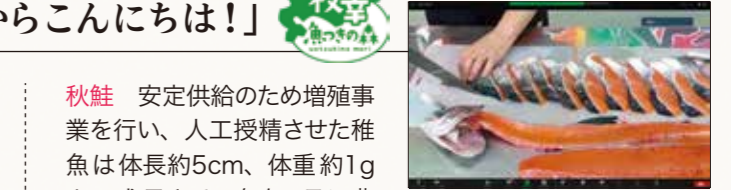
吹雪の中、枝幸漁港周辺を屋外から説明する漁協の新井田さんの姿に北海道の「枝幸」という場所を実感!参加者は67組201人でした。

植樹 「魚を殖やしたければ山に木を植えることだ」枝幸の漁師さんはそう昔から伝えられてきたそうです。流れを汲むように2007年7月から始まった「魚つきの森」をつくるための植樹活動。2023年10月には体験ツアーで14人の組合員がハンノキ約30本を植えました。

ホタテ 枝幸の漁場は細かい砂と柔らかい土質なので、栄養豊富な貝柱が特徴。水揚げのクレーン操作は命がけでミスが許されない大仕事です。ホタテは船から直営加工工場直結なので、新鮮さ、そしてお味はお墨付きです!



女性部長上野さんが秋鮭の見事なさばき(三枚おろし)を動画で披露!



秋鮭 安定供給のため増殖事業を行い、人工授精させた稚魚は体長約5cm、体重約1gまで成長させ、毎年5月に豊漁を願って関係者が集まり放流式を行います。秋には定置網をかけない時期を設け、持続可能な漁業を目指しています。

オンラインのミュートが解除された途端「おいしい!」が連呼した試食タイム。画面にも笑顔がいっぱい。「プリプリしてた」「ホタテの縦横の切り方で食感が違った」など、チャットのメッセージも途切れることがありませんでした。

